

お茶の水女子大学附属高校の生徒からの投稿 ③

5月にお茶の水女子大学附属高校の生徒たちが学年宿題、諏訪地方を訪ねた。生徒たちから寄せられた投稿を紹介する。

自然に近い長野

片山 優希

長野合宿の事前学習で私はひとりで不慮に思ったことがある。それは、自然は私たちにたくさんの恩恵を与えてくれているが、私たち人間は自然に、何を与えているのだろうか、ということだ。自然と私たちは対等な関係であり、自然からの矢印だけでなく私たちがからの矢印があるのは当然だろうと思っただけだ。しかし、この考えが間違っていることを実際に自然と直接触れ合ったことで私は強く感じた。八島温泉でのハイキングの時、ネイチャーガイドの田口さんが森の方へと連れて行ってくれた。そこは私たちが人間が征服してはいけない、いや、征服できない世界だった。田口さんはまた、私たちに「自然は成長している」と説明してくれた。そこで私は二つの考え

心づかいから生まれる温もり

原 良佳

先日、学年合宿で長野県の諏訪地域に行ってきた。合宿中は様々な体験をしてきたが、私にとって最も印象深かったのは、フィールドワークの途中、山猫亭での出来事だ。私たちが山猫亭の名物デザート「そばちぢ」を頂いていると、二名の女性客がやってきた。時刻は十六時五十三分、営業終了の十七時まであとわずかであった。お店の方が、「もうすぐ閉店なので

活き活きした御田町商店街

栗原 里奈

先日、学校の合宿で諏訪に行ってきた。諏訪湖周辺を散策したり、八島温泉でハイキングをしたりと、非常に自身の濃い三日間だった。その中でも最も印象に残ったのが御田町商店街である。近年、ショッピングモールの開設や後継者不足でシャッター商店街が増加している。御田町商店街は住民を中心としたグループが商店街の活性化をめざし、「もともともある刀」つまり住民の力で新しくやってきた若者を支援したりしている。また、木製ビルカーやステンドグラスなど、商店街のイメージとは異なった「モノづくり」に着目した商いで空き店舗を工房に変化させたもした。そのような成果で二〇〇〇年初めて三分の一が空き店舗だったのが二

心地良い御田町商店街

染谷 実奈

先日、学校の宿泊行事として諏訪を訪れ、御田町商店街を散策した。事前にこの御田町商店街が「がんばる商店街」とされていることは知っていた。しかし、ここまで魅力的な商店街とは思っていなかった。御田町商店街は全長二百ほどの商店街だ。この商店街の魅力は昔ながらの店と、現代のものづくりの店が混在してい

変わった製糸業のイメージ

関口 早紀

岡谷蚕糸博物館を訪れたとき私は初めての繭を見た。驚いたことに一つの繭から約千五百羽の糸が出るらしい。八十度のお湯でゆでながら十個ほどの繭から同時に糸をとっていく。その糸にはゼリリンという接着剤のような成分が入っており、本糸は合わせた瞬間から一本の強い糸になる。通しても伝わる熱狂ぶりでした。

諏訪大社を訪れて

松本 愛利

二〇一五年五月十三日から十五日まで、私たち第一学年は親睦を深めるために長野県諏訪市に合宿で行きました。その中で印象深い思い出に残ったのは諏訪大社に行っただけです。移動するバスの中で諏訪大社に関するビデオを見ましたが、寅と申の年に行われ、諏訪大社では最大の神事である御柱祭は、画面を

自然を守るために

遠山 聡美

先日、学校の宿泊学習で諏訪地方に行ってきた。そこで私たちは信州野沢菜干場見学センター、山田養蜂所、諏訪大社、八島温泉片倉館、諏訪湖、御田町商店街、岡谷蚕糸博物館、宮城製糸所、丸井伊藤商店等色々な場所を訪れた。その中でも私が印象に残ったのは八島温泉である。「温泉」と聞くと、じめじめとしたイメージがあるが、実際はそうではなく、温泉とは植物の遺体が堆積してできたものだということを知った。そこでは、自分の住んでいる所では見られない豊かな自然を見ることができ、耳を澄ますと聞こえてくるウグイスの「ホーホケキョ」という鳴き声、きれいな空気が、うきうきに食べられ、とろとろとろほけている木々...その他にも日常にはないものを見ることができ、とても良い体験となった。この素晴らしい自然を守るために、私は何をできるか考え、身近なところから実践していきたい。